

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2021年3月

第83号

NPO 法人 こんぶくろ池自然の森 10周年記念寄稿 ⑦-1

「こんぶくろ池」が始まった頃に出会った植物と人々①

千葉大学園芸学研究科・園芸学部

小林 達明 様

もう昔話になるでしょうか、私がこんぶくろ池と関わり始めたのは、平成15年に始まった「こんぶくろ池公園環境創造会議」に委員として参加した時でした。委員長は、千葉大環境健康都市園芸フィールド科学センターの副センター長だった安藤教授、学識の委員には、東大新領域の大矢先生と皆さんお馴染みの福田先生がいました。市民から、こんぶくろ池を考える会代表として大貫さん、市民委員に綱野さんや岡野さんがいました。このほかにも、毎回の会議に、考える会の佐々木（光）さんや山下さんが参加されていました。市側出席者は都市緑化部長のほか、こんぶくろ池公園計画室として、皆さんお馴染みの吉川室長、酒井主査ほか、第1回会議にはアジア航測から細川さんも出席されています。

大貫さんはこんぶくろ池の保全運動を牽引された方、上品な中にさすがに強固な芯を持っておられるなという印象。綱野さんはアイデアマン、その後色々な所で会うことになります。岡野さんはちょっと謎めいたナチュラルリストで千葉大OG。鋭い指摘には、卒業生と思ってかわかせていただいています。吉川さんは、色々な経緯で柏市が引き受けることになった「面倒」を、持ち前の実行力と明るい笑顔で着実に推進されていました。酒井さんは控え目に吉川さんをサポートされていたましたが、こんぶくろ池をめぐる全体をフォローされていたように思います。

平成15年11月の第1回会議は、地形や動植物などの基礎資料、千葉県環境会議の提言など重要な資料がたくさん配布されて議論されています。座長の肩書きの書き方や傍聴が認められるのかどうかという硬い議論から始まって、子供の教育利用とか、100年スパンで考えるとか、どちらかという当たり障りない議題が中心でどこもなく進んだ印象です。ちなみに私は第1回会議では一言も発言していません。現場のことを何も知らないし、恐る恐る様子を伺っていた。

平成16年2月の第2回会議には、早くもゾーニング案が示され、ゾーン毎の管理基本方針が書き込まれた資料が市から配布されました。2回目は、参加者もだいぶ油が乗ってきた感じで喧々諤々の議論

が始まります。特に議論になった言葉が「里山」で、保全と利用どちらに重きをおくのか、そもそも「里山」の共通理解があるのか、など大いに議論になりました。結果としては、拙速に計画を進めるのではなく、実地を基にした正確な議論をしましょうということになったと思います。この時、ホワイトボードに現地の大きく鮮明な航空写真が掲げられていました。これを基に皆さんの知見を空間的に集約したらよいのではないかと思いつきました。

そこで平成16年(2004)春から、こんぶくろ池周辺の調査研究を始めました。調査は絵が得意な4年生のMさんが担当してくれました。とはいえ、指導すべき私自身の湿地調査経験がなく、植物の知識が乏しかったので、調査を始める前に、考える会のメンバーの皆さんに現地演習をしていただいたと思います。特に佐々木さんと山下さんは植物に詳しく、いろいろ教えていただきました。寡黙な佐々木さんは柔らかく微笑みながらも、存在に凄みを感じさせられる方でした。写真撮影を趣味とされており、のちに活動を離れられる際に、たくさんの素晴らしいデジタル写真をいただいています。山下さんの植物知識はきわめて豊かで何でも教えていただいた印象です。私が学生時代多少の関わりがあった若干私生活に問題のある先生とご縁があると知って大変驚いたものでした。

ヌマガヤ、ズミ、ツリフネソウから始まって、サワシロギク、クモキリソウ、オオバノトンボソウ、ノジトラノオ、ゴマギ、ウメモドキ、コムラサキ等々、知らなかった植物を教えていただいたこともそうですが、ここで本来の性質を「なるほど」と学んだ植物もたくさんありました。

Mさんは4年時留学されたので、途中一年開けて平成16年と18年に、丁寧に調査してくれました。その結果、こんぶくろ池公園予定域の自然植生は①ハンノキ・ミゾソバ・コムラサキなどで識別される湿地植生とキンラン・クマヤナギ・フタリシズカで識別される森林植生に大きく二分されること、②湿地植生はオニスゲーハンノキ群集とクヌギーコナラ群集に分類でき、そのうちクヌギーコナラ群集は攪乱地と下層にツル植物・シダ植物・コバギボウシを含む型に分類できること、③森林植生はアカマツ林とクヌギーコナラ群集に分類でき、そのうちクヌギ・コナラ群集は下層にアズマネザサが密生する型と常緑低木含む型に分類できること、と整理できました。

湿地植生のうち、オニスゲーハンノキ群集は常時湛水した土地に成立した湿生植物からなる群落で、こんぶくろ池の草本ではオニスゲよりもカサスゲやゴウソが主体になっています。こんぶくろ池を代表するズミも主としてこの群落で生育しています。ヌマガヤはその中でも特に嫌氣的な土壌環境に生育します。ヌマガヤが作った谷地坊主にハンノキが屹立する奇観は、まさにこんぶくろ池を特徴づける景観だと思えます。まさに保全対象です。

湿地植生のクヌギ・コナラ林の林床には、コバギボウシ・キンミズヒキ・アキノタムラソウのような魅力的な草本植物が生育しますが、放っておくとアオキ・ムラサキシキブ・イボタノキのような低木が徐々に拡大する傾向があり、それらをどう抑制するかが管理のキモのようでした。

森林では、アズマネザサが拡大する傾向が見えました。アズマネザサが優占すると出現種数が著しく減少し、ササが衰退した後でも草本

が貧弱でした。したがって、森林では、ササをどう抑制するかが森林植生管理の第一条件でした。

このような知見を基にして、平成17年3月に、「市民で育てる100年の森・こんぶくろ池自然博物公園」を基本コンセプトにしたこんぶくろ池公園整備基本計画策定調査報告書が作成されました。①自然の保全・再生・創出によって、100年の森を育て、②森と人の営みを活かして、心豊かな人を育て、③自然といつまでも共生できる健康なまちを育てる、とあります。今回改めて見返して、①だけでなく、②から③に至るとてもよい考え方だなと再認識した次第です。

報告書には植生の管理方針が入っていますが、コンサルさんが作った原稿に対する私のチェックが甘く、実は肝心なところに誤植があり反省しています。この後、平成18年3月に考える会が出された「こんぶくろ池と周辺の森第三集」に、「こんぶくろ池の自然を守り賢明な利用を進めていくための考え方」と題する文章を寄稿させていただきました。当時考えていたことは、こちらの方で十分に書かせていただきました。今も基本的な考えは変わっておりません。

計画的管理のために、柏市には地理情報システム（GIS）を導入してもらいました。当時柏市の職員でカシニワで活躍された細江さんが貴重種の分布などのデータ整備を進めてくれていたと思いますが、彼女が退職されてGISを使える人がいなくなって、マップづくり作業が進まなかったのはちょっと残念です。

（全2回 後半は来月号に続きます）

新入会員紹介

ひろこ
中野 裕子さん



参加の動機：日々の暮らしの中で自然に接したいと思い参加を決めました。

趣味・好きなこと：植物を育てたり、眺めたりすること
工作、本を読んだり、本を作ったりすること（ルリユール＝製本工芸をしています）

ヌマガヤの保全・再生について

NPO 法人こんぶくろ池自然の森 調査班

ズミ、サワシロギクについては重点的に保護活動が始まっていますが、同様の湿地に生育するヌマガヤについても実施していきます。

ヌマガヤの過去 15 年間の個体数推移をみると多数とありますが、こんぶくろ湿地での分布状況を見る限り、年々、小株化し、株数が減少傾向にあります。ヌマガヤは、かつてこんぶくろ池の小さな池塘で生い茂り、川の流に沿うように点々とありましたが、今では個体数をカウントできる程まで（計 27 株）に変化してきています。（図 1）

代わって、似たような状況下で生育するカサスゲが地下茎を這わせてヌマガヤの領域を奪うほど旺盛化しています。

また一方、一号近隣公園エリアのハンノキが茂る湿地域では、ヌマガヤの大群落が存在しています。（図 2）

保全再生にあたっては湿地植生のズミ、サワシロギクでの対応と同様、明るい湿地と、湿地を維持するための湧水確保等の対策が求められます。

今年度の計画として、分布状況を広く把握し、混在するカサスゲ群落の縮小を図ります。

（文責：矢島 修二）

図 1 こんぶくろ池周辺におけるヌマガヤの分布

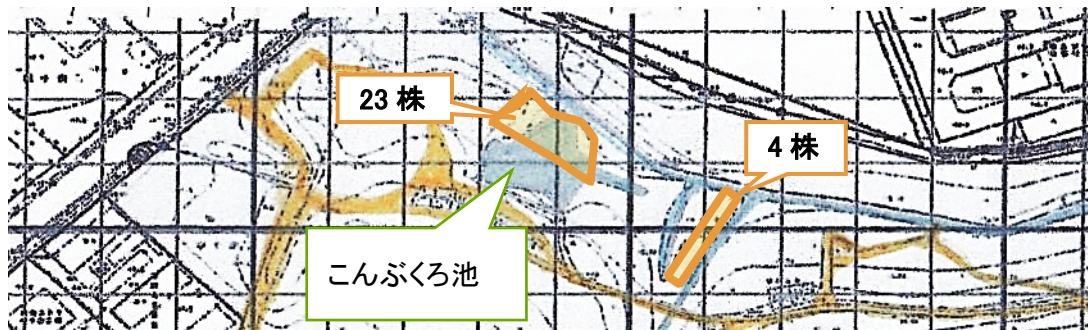
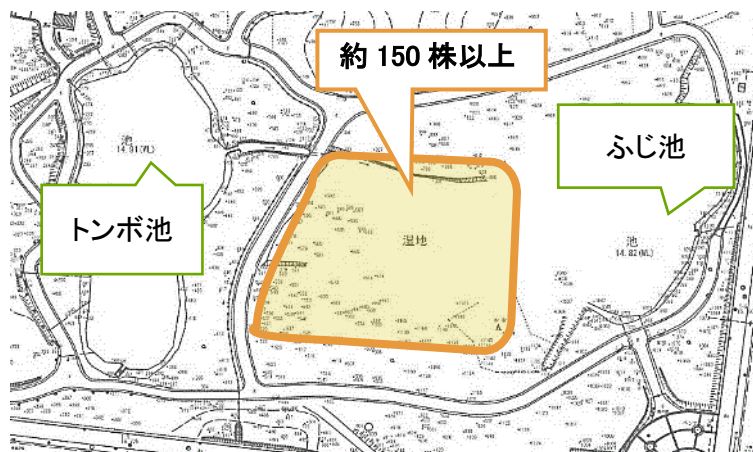


図 2 ふじ池周辺におけるヌマガヤの分布



ヌマガヤ

千葉県レッドリスト：重要保護生物 (B)

こんぶくろ池自然博物公園昆虫相調査報告

千葉県昆虫談話会

千葉県昆虫談話会は、2018～2019年の2年間、こんぶくろ池自然博物公園において昆虫相調査を実施した。その結果を取りまとめて千葉県昆虫談話会会誌「房総の昆虫」No.64とNo.67に公表した。No.64には、2018年の調査の途中経過を、No.67には全体のとりまとめを記述した。その概要は以下の通りである。

I. 調査地の環境変遷

調査地の環境変遷について、古地図や航空写真から推定した。その結果、当地の環境は、下の5つに分類され、今後も推移が進行すると考えられる。

- ①近世以降人為による改変がほとんどない：弁天池（A2）、こんぶくろ池（A3）、A区草原（A4）？、地金堀（A6）
- ②近代期に開墾→放置による樹林化：A区疎林（A1）、B区北（B1）
- ③近代期に開墾（畑）→戦後に植林→放置による遷移林化：A区東（A7・8）
- ④近代期に開墾→戦中・戦後に造成→放置によるブッシュ化：B区南（B2）、C区中央湿地周辺樹林
- ⑤近代期に開墾→戦中・戦後に造成→公園整備（樹林・低茎草原・湿地林・水域）：④を除くC区のほぼ全域

II. 調査結果

1. 全体の概要

2年間にわたる調査で、不明種・未確定種等を含め15目250科1,786種を確認し、9,795点の証拠標本を得た。さらに未検討資料が残っているため、今後、種数・証拠標本数共に増加する予定である。

1) 初記録種

全分類群を通して、国内初記録2種、県初記録52種を見出した。その詳細は次の通り。

(1) 国内初記録種

- 鱗翅目（2種）：ヒシモンカバマルハキバガ（新称）、ギンチビキバガ近縁種（和名未定）*Thiotricha chujaensis* (Park, 2016)

(2) 千葉県初記録種

- 鱗翅目（22種）：ツマキヒラタモグリガ、ミドリヒゲナガ、ハンノキマカリガ、ニガキギンホソガ、チビカザリコガ、オオホソハマキモドキ、アトフタモンホソハマキモドキ、ウスキボシキバガ、ニセチェジュキバガ、カギツマドウガネキバガ、ルリイロスカシクロバ、アカオビギンスジヒメハマキ、セクロモンヒメハマキ、ウスズミクロモンヒメハマキ、クロモンアシブトヒメハマキ、ヒメササベリガ、ニッポンシロシクイ、ニシザワマダラメイガ、ナイトウノメイガ、ヒメミスジエダシャク、オスグロホソバアツバ、ヒメオビウスイロヨトウ
- 鞘翅目（8種）：アナバケデオネスイ、ニセホソキヒラタケシキスイ、オドリコソウチビケシキスイ、モンクチビルテントウ、ハヤシヒメヒラタホソカタムシ、*Ormiscus* sp.、コブハナゾウムシ、ウスモンチビシギゾウムシ

- 双翅目（12種）：イワタシギクサアブ、ヒメトゲナシケバエ、ギシロフアブ、ヒサマツムシヒキ、ケブカキアシモモブトセダカバエ、シママメヒラタアブ、ナミヒトテンツヤホソバエ、イネクキイエバエ、キアシトゲアシイエバエ、ハボシトゲアシイエバエ、サガミトゲアシイエバエ、ジョセフニクバエ
- 膜翅目（10種）：ヒラアシハバチ、ローワークロハバチ、コキモンハバチ、リュウキュウコンボウアメバチ、ヨトウウスマルヒメバチ、アリジゴクトガリヤドリヒメバチ、リンゴケンモンヤドリヒメバチ、コクロヒラタヒメバチ、ハラナガツヤアシブトコバチ、タイチョウキマダラハナバチ

2) 保護対象種

千葉県レッドリストで保護対象とされる410種のうち39種を確認した。

最重要保護生物【A】（2種）：コブアリノスアブ、フルカワフトハキリバチ

重要保護生物【B】（7種）：オオチャバネセセリ、アオヤンマ、クビナガヨツボシゴミムシ、ハネナシアメンボ、ハグロフタオビドロバチ、ガガンボモドキ、ヒメカマキリモドキ

要保護生物【C】（18種）：（ウラゴマダラシジミ）、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミドリシジミ、オオミドリシジミ、ミドリヒョウモン、アサマイチモンジ、ジャノメチョウ、ミヤマチャバネセセリ、アオイトトンボ、ホソカミキリ、ベニバハナカミキリ、クツワムシ、キーガンニクバエ、ニホンヒラタタマバチ、スギハラクモバチ、ミイロツメボソクモバチ

一般保護生物【D】（12種）：クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、ヤブヤンマ、サラサヤンマ、ウチワヤンマ、チョウトンボ、ムネアカセンチコガネ、チャイロヒメハナカミキリ、オオアメンボ、ヤスマツアメンボ、ヒメジュウジナガカメムシ、ヤマトシリアゲ

3) 外来種・分布拡大種

県外来生物リストに準拠し、外来（31種）、拡大（6種）を挙げた。

4) 当地に特徴的な種

当地に特徴的な環境は湧水起源の池や湿地であり、このような環境に特異的に棲息すると考えられる種や（水棲種を除く）、湿地林を構成する植物に依存、もしくは確認された種は以下の通りである。

- 湿地性種（10種）：サラサヤンマ、ヒメホソナガゴミムシ、アシミゾナガゴミムシ、ニホンヒメメダカハネカクシ、コクロメダカハネカクシ、ヤトセスジジョウカイ、ババヒメテントウ、イネゾウムシ、ミズギワカメムシ、ミナミカマバエ
- ハンノキ（11種）：ミドリシジミ、ハンノキマガリガ、アカイラガ、オナガミズアオ、ルリモンシャチホコ、ウスミミモンキリガ、フタオビミドリトラカミキリ、ハンノキハムシ、ムナグロツヤハムシ、ヒラアシハバチ、シロアシマルハバチ
- イボタノキ（3種）：ウラゴマダラシジミ、ホシシヤク、クロボシトビハムシ

2. 主要な分類群の様相

主要な分類群、鱗翅目、蜻蛉目、鞘翅目、膜翅目の4目について、調査地での特徴やこれまでの調査との比較を行った。また、確認された全目の記録を掲載した。

平成3年冬季こんぶくろ池句会・歌会作品集

松田 和生

俳句の部

竹伐りて束ね投げれば筋トレに	イチケンサンバ
こんぶくろもりいっばいの落葉籠	サンディ
空高く鳴く白鳥の北帰行	サンディ
お正月今年は静かにコロナ酒	昇多
立つ春や耐えに耐えたる梅の花	昇多
厳冬に耐えて今宵の梅の花	昇多
日溜まりに木枯らし避けてスマレ咲く	権兵衛
コロナ禍の終息願う初日の出	はやぶさ2
せみ塚や芭蕉をしのぶ冬日向	山武
冬あかね天空(そら)雄々しき会津富士	山武
紅葉の童子(どうじ)まつるや円通寺	山武
只見の湖遠笛ひびく冬紅葉	山武
蟬梅の散りたる庭に福寿草	秀夫
やわらかな陽をあつめたる福寿草	秀夫
春陽ざし妻と想いのこんぶくろ	吉葉 理
池に朝日さして煌(きら)めく初氷	わらしべ

短歌の部

ころころと春鳥のごと友の声	
森の散策心地よきかな	かわせみ
飴ちゃんの袋は土には還らない	
落ち葉の上の落とし物なり	かわせみ
父と観た歌舞伎座の飴思い出す	
森の木陰のニッケイの香	かわもこ
窓枠の彼方に見えし冬の雲	
池を眼下に緑茶をすする	ノー・ボール
広々とシュプール描くスキーヤー	
独り寂しくゴンドラリフト	秀夫
木枯らしと冬木立とがコラボして	
自然の森の唄は楽しき	わらしべ

あとがき

今回は、コロナ禍が第三波におよび国を挙げて蔓延防止に取り組む中、延べ12名の方から俳句十六句、短歌六首の作品が寄せられました。

今回の特徴は、これまでの中で最多の応募者数、作品数を記録し、中でも来園者の方からの投稿が増えたことで、大変喜ばしいことです。

これはこんぶくろ池自然の森の同胞の皆さんの熱心な活動のお陰と感謝し、こんぶくろ池を中心に俳句・短歌の輪がさらに大きく広がることを期待します。

次回は春季（3月～5月）になりますが、思い立ったが吉日、投稿箱の他、世話人あてのメールでも結構ですので是非応募して下さい。

2月理事会

（日時）2021年2月27日（土）13:00～16:30

（出席者）岡本、上田、藤原、中川、萩原

1. 審議検討・確認事項

（1）こんぶくろ池公園植生管理計画について

- ・ 2/22（月）開催のWEB会議結果の報告を当日配布資料及び議事録を使用して行った。

（2）“ナラ枯れ”被害木処置状況について

- ・ 造園業者による作業実施内容に確認を要する点があったため、近日中に公園緑政課に協議を申し入れることとした。

（3）第4四半期の予算執行について

- ・ 予算執行状況は順調であり、3月は必要な事務用品等の購入が可能である。

（4）年度末業務遂行状況について

- ・ 柏市への報告（業務委託仕様書関連部分及び各種調査）準備作業状況に特段の問題のないことを確認した。
- ・ 来年度の事業活動計画については、①草刈り実施エリア/時期、②ズミ再生、③地金堀の観察路整備、④主要イベント等を含めた案作りを行う（萩原・上田）。
- ・ 第12回通常総会準備については、開催予定日を4/25（日）として準備を進める。新型コロナの影響で集合形式での開催が困難な場合は、4/24（土）に書面決議方式にて開催する。総会案内発送は、3月中旬を予定。

（5）譲受するズミを植える場所の選定について

- ・ 2/27に千葉大小林先生より約60本、石渡氏より1本のズミ苗木を受領。3月に中庭氏より約20本のズミ苗木を受領予定。
- ・ 石渡氏よりの受領分は弁天橋手前地金堀寄りに植栽実施。

- ・ 3月には中庭氏より受領予定分約 20 本を弁天流れ等に植栽予定。
 - ・ 掩体壕付近及び一号近隣公園内の試験植栽場所を調査班で特定の上、3月合同活動日に植栽を実施する。
- (6) 5月開催のこんぶくろ池展示会について
- ・ 新型コロナの影響で昆虫談話会の協力は難しい見通しであるが実施方向で進める。
 - ・ 3/20 迄に、東大久保田先生の意向を確認する（上田）。
 - ・ 3/21（日）NPO 内第 2 回打合せ実施予定。
- (7) 3月開催の活動体験月間の準備状況について
- ・ 2/27 時点の参加申し込みは 3 名。
 - ・ 県民プラザ HP にも参加者募集情報を掲載いただいた。
- (8) 水質浄化設備の曝気槽の点線整備について
- ・ 確認依頼ポイントを明確にしたうえで、見積を依頼する方向となった（萩原）。
- (9) 契約当番表の会員配布について
- ・ 3/7（日）より手交開始、3/13（土）までに手交できなかった当番担当者には総会案内と一緒に郵送する。
- (10) 3-4月活動計画
- ・ 4月のハリエンジュ薬注の実施に先立ち、使用予定薬剤を公園緑政課に連絡の上協議する。
- (11) 一号近隣公園秋水燃料庫および第2の掩体壕
- ・ 一号近隣公園秋水燃料庫 ⇒ 3月上旬に試掘実施予定
 - ・ 第2の掩体壕 ⇒ 周辺のアズマネザサ刈取りについて文化課と協議を行うように公園緑政課に申し入れた。
- (12) 園内喫煙ルールについて
- ・ 受動喫煙の防止に向け、柏市では H22 年 5 月 31 日の「世界禁煙デー」にあわせて市所管の公の施設の敷地内を全面禁煙としており、それに従いポスター等を掲示することとした。
 - ・ 柏市に最新情報を確認し、それを踏まえて対応策を検討する。

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。